

TABLE FOR TWOかわら版 補足資料 ～Vol.19 ケニア視察報告～

2015年3月発行

TFTプログラムをご担当くださっている皆さまへ

日頃からTABLE FOR TWOプログラム実施のため多大なるご支援を頂戴しまして誠にありがとうございます。本資料は、かわら版だけでは伝えきれない支援先の情報を皆さまにお届けするための補足資料です。貴団体内でのコミュニケーションやPRにご活用いただければ幸いです。今後とも引き続きのご支援、何卒宜しくお願い致します。

<補足資料Vol.19をお送りするにあたって>

2014年12月に、TFT事務局の小暮・笹本が、ケニア・ビクトリア湖のルシンガ島・ムファンガノ島の幼稚園2校を訪問しました。ここでは、2012年1月から3～6歳の幼稚園児たちへ、朝食と昼食が提供されています。今回の補足資料では、給食プログラムの実施状況や周辺地域の概況について、お伝えいたします。

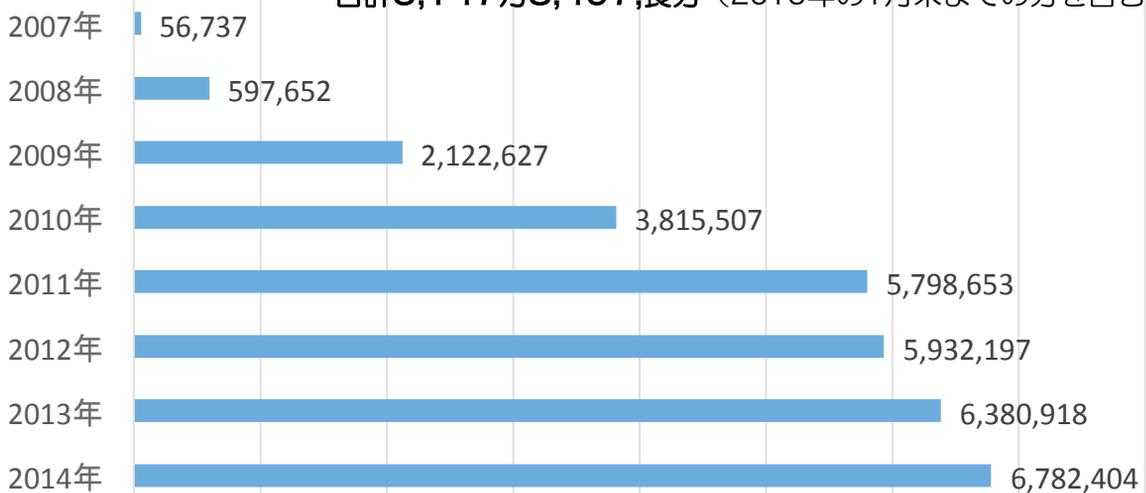
2ページ目以降の資料は掲示板への掲出や、卓上POPとしてご利用いただけます。かわら版本紙、補足資料ともに、TFTのウェブサイトからダウンロードしてご利用いただけます。

<日本でのTFTプログラムの実施状況> 計664の団体で実施中（2015年3月5日現在）

内訳	団体数	比率
1. 企業(社員食堂、自販機)	314	47%
2. 学校	121	18%
3. 店舗・小売食品	138	21%
4. 官公庁・公的機関	46	7%
5. 病院	18	3%
6. その他	29	4%
合計	666	100%

<これまでに寄せられたご寄付> *TFT事務局に入金された寄付金額ベースで食数に換算

合計**3,147万8,497**食分（2015年の1月末までの分を含む）



ケニア共和国 ルシंगा島・ムファンガノ島

ケニア北西部に位置するビクトリア湖に浮かぶ島々に、TFTが支援する幼稚園があります。

ルシंगा島、ムファンガノ島に暮らす人々は、かつて半農半漁の自給自足的な生活を営んでいました。しかし1950年代半ば、「ナイルパーチ」と呼ばれる淡水魚が、イギリスからビクトリア湖に持ち込まれたことにより、住民の多くが農地を捨て、漁業に従事するようになりました。漁業人口の増加に伴い、ナイルパーチの乱獲が進みました。その結果、ナイルパーチの取引価格が暴落し、住民の多くが漁業だけでは生計を立てることができなくなってしまいました。

漁業人口の増加から派生する問題も深刻化しています。

• HIV/AIDSの蔓延：

漁師の多くはビクトリア湖畔を定期的に移動しながらナイルパーチ漁を行っています。彼らが寄港中に繰り返す買春はHIV/AIDS蔓延の原因になっています。ルシंगा島・ムファンガノ島でも20~40代のAIDS発症率・死亡率が非常に高く、AIDS孤児が祖父母や親戚のもとへ身を寄せている状況が多くあります。

• 森林伐採の加速：

捕獲されたナイルパーチを薫製加工する際、漁師の多くが周辺地域の木々を無許可で伐採し、燃料として使用しています。さらに人口急増に伴う生活用の薪の伐採量の増加とあいまって、森林破壊が急速に進んでいます。伐採によって土壌が浸食された結果、湖に土砂が流れ込み、水質汚染の原因となっています。



栄養豊富な給食を、幼稚園に通う子どもたちに

TFTはルシंगा島とムファンガノ島の幼稚園で、月曜から金曜の週5日、3~6歳の子どもたちに朝食と昼食を提供しています。園児の多くは、家庭での食事のままならず、慢性的な栄養不良状態にあるため、温かく栄養豊富な給食は重要な役割を果たしています。

朝食には、「Uji (ウジ)」と呼ばれる、穀物・水・少量の砂糖で作られた、温かいおかゆを提供しています。

昼食には、ウガリ（とうもろこし粉と水を練ってできたお餅のようなもの）またはお米、ビクトリア湖で獲れた小魚や豆の煮込み、現地で盛んに栽培されており、栄養価の高い葉もの野菜「Sikuma Wiki (シクマウィキ)」の炒めものなどを提供しています。

調理が簡単という理由で、揚げ物類を頻繁に食べる家庭が多い中、バランスのとれた給食は、子どもたちの健康と味覚を育む手助けにもなっています。



朝食を楽しむ子どもたち



この日の昼食は、ウガリ、シクマウィキの炒め、小魚の煮物。

給食プログラム開始直後は、幼稚園の敷地内の林にかまどを作って煮炊きをしていました。石を置いただけの簡素なかまどが2つあるのみで、給水設備も整っておらず、当初の調理能力は一日60食程度しかありませんでした。

2014年7月、より多くの子どもたちに給食を届けるため、給食室が建設されました。新しい給食室には、かまどが3つあり、大小4つの鍋で調理ができます。現在は、約140名の子どもたちに給食を提供していますが、調理能力にはまだ余裕があるため、給食提供の対象を幼稚園児から小学生にまで広げていることを検討しています。



過去に使用されていた屋外かまど



食事前に手を洗う
子どもたち



新しいかまどで、主食となるウガリを調理中

タンクで貯めた水を利用した蛇口が2箇所に設置され、子どもたちが手を洗ったり、食器を洗ったりする際に使用されています。

新しいかまどは熱効率が良く、一回の調理に必要な薪の量が減り、周辺の森林伐採を最小限にとどめられるようになりました。煙突も設置されて煙の吸い込みも減り、地域住民はより快適に料理を行えるようになりました。給食制度を整えることで環境と健康に対するリスクが軽減されたのです。

学校給食が、地域住民の結束のきっかけに

新しい給食室が稼働し、給食を食べられる子どもの数が増え始めると、この幼稚園に地域住民の注目が集まり始めました。

「あの幼稚園では、何が起きているのだろうか？」
「よくわからないが、何かが変わりそう！」

そんな思いを抱く地域住民が一人、また一人と増えていったのです。この機運を利用し、地域の住民同士の連携や学びを深める場として、幼稚園が活用され始めています。

具体的には、周辺住民を対象とした集会在、幼稚園の教室で毎週2回開催されています。対象地域では、毎回平均20～30名が参加しています。環境保全や保健衛生について、「薪のために木々の伐採を続けたらどうになってしまうのか」「調理時には、どのようなことに留意すればいいのか」など、具体的な課題について住民たちが意見をぶつけあう場となっています。



ルシガ島・カゲノ幼稚園の教師たち

より持続可能な形で給食プログラムを運営していくため、TFTは長期的な視点から多様な取り組みを検討しています。

第一に、学校菜園を整備し、給食に必要な食材の一部をまかなうことを目指しています。子どもたちだけでなく、地域住民も集まる場となりつつある幼稚園に菜園を整備することで、大人にも学びの機会を創出します。島では森林伐採による土壌浸食が進み、耕作地の土が痩せてしまっています。この状況を改善すべく、植林で土の流出を防ぎ、有機肥料を用いた耕作方法の導入を検討しています。

第二に、子どもたちの栄養失調の根本的原因である、家庭の貧困状況を改善するために、地域住民向けの所得向上トレーニングを実施しています。これまで、地元で廃材となっているビニール袋を用いたバッグ作り講習会を開催しました。廃材の仕入れ方から、バッグの作り方、お金の管理方法まで、副業として営むための包括的な知識・技術を習得してもらうことを目指しています。

今後も、地域住民の興味関心・問題意識に即した技術指導プログラムを構築していく計画です。



ムファンガノ島でバナナをほおぼる子どもたち

TABLE FOR TWOスタッフより

ルシंगा島やムファンガノ島が位置するビクトリア湖は、TFT支援地域の中でも、多くの課題が複雑にからみあった地域である、と強く実感させられた視察となりました。

特に、HIV/AIDSの蔓延は非常に深刻です。給食運営に携わる地域住民と話した際、「そこでランチを取っているのは、私の孫娘なの。この子の両親は、AIDSで亡くなったの。」と話していました。視察中、そのような話を、幾度と聞くことになりました。

そのような状況の中、給食1食がもたらす正のインパクトも目の当たりにしました。子どもたちがごはんを食べ、勉強に取り組み、元気に笑顔で遊ぶ姿を見ると、1食が創り出すエネルギーは、非常に大きいと感じています。

多くの課題が絡み合う地域で貧困を解決するためには、どのようなアクションを取ることが、その地域にとって最適なのか、世界のエキスパートたちが未だ「正解」を見つけられずにいます。これからも、TFTだからこそできることを、現地に暮らす人々と膝を突き合わせながら、一步一步模索していきたいと思えます。

(TABLE FOR TWO事務局 笹本)

